

沖縄県医療ソーシャルワーカー協会

MSW ニュース 2月号

2017年2月1日発行

事務局：大浜第一病院

〒902-8571 那覇市天久 1000 番地

TEL (098) 866 - 5171

FAX (098) 864 - 1874

E-mail t-matayosi@ns.omotokai.jp

編集：金城 大樹（豊見城中央病院）

♣ 今月の CONTENTS

- 特集 九州医療ソーシャルワーカー研修会かごしま大会参加報告
大浜第一病院 玉城 静佳……1
- 今月のトピック
那覇市立病院 島袋 恭子……2
- 各部会報告
・研修部だより
・樋口会長より
……3
- コラム
……4
- 編集後記
……4

報告：九州医療ソーシャルワーカー研修会かごしま大会参加報告

報告者：大浜第一病院 玉城 静佳

平成28年11月26日～27日に鹿児島大学で開催された、第53回九州医療ソーシャルワーカー研修会かごしま大会に参加しました。大会テーマは『No Limits ソーシャルワークに限界なし』～つないでいこう人・地域・心～です。

初日には、日本医療ソーシャルワーク学会副会長の村上須賀子氏による基調講演とカテゴリー別に分けられた研究発表がありました。基調講演では「地域医療ソーシャルワークを志向して～変化を生み出すチャレンジ～」と題し、安定した在宅医療生活を持続させるための受け皿創りとして地域包括ケアシステムを構築し、地域活動の軸足を病院からより地域へと移行していくことを提言されていました。

研究発表は、ソーシャルワーク実践や退院支援、業務改善など5つのカテゴリーに分けて行われ、私はソーシャルワーク実践・退院支援のカテゴリーで「最期は自宅で過ごしたい～終末期の退院支援からMSWの役割を考える～」をテーマとし発表しました。退院支援の業務に追われる中でも退院させることだけに目的を置くのではなく、患者と医療者をつなぐMSWの役割を考察した内容になります。

2日目は、前半に「熊本地震から学ぶソーシャルワーク」と題して特別講演とシンポジウムが開催され、災害時にソーシャルワーカーとして何ができるのかという熱い議論が交わされとても興味深い内容でした。

後半には分科会と中堅者研修が同時に開催されました。分科会は①コミュニティワーク②ストレスマネジメント③面接技術④病院運営・病衣経営の4つに分かれ、コミュニティワークに参加し、講義と実践事例を通して学ぶことができました。

県外での研修、発表を通して多くの出会いと刺激、学びを得ることができとても良い経験となり、帰

ってからの業務の活力となっています。今回、沖縄県からの参加は6人で発表者は私のみと少し寂しい気がしたため、今年のながさき大会では沖縄県から多くの方が参加されることを期待しています。来年はおきなわ大会となるため、皆さんで盛り上げていきましょうね。

今月のトピック

報告者：那覇私立病院 島袋 恭子

皆さんこんにちは。“むーちーびーさ”が遅れてやってきましたが、元気にお過ごしでしょうか？さて、入退院支援連携デザイン事業の圏域ごとの研修会が宮古地域を皮切りに始まっており、1月は八重山、2月は中部、3月は北部、南部と予定されています。

今月のトピックでは、2月の研修会でお招きする医療法人悠翔会診療部長の佐々木淳氏についてご紹介し、「地域包括ケア」を医療の場から考えてみたいと思います。

先生は、筑波大学を卒業後、病院で5年半の研修を終えた後は東京大学大学院に入学。更にそこで出会った人の勧めにより外資系コンサルティング企業に入社。そんな中、アルバイトで勤務し初めて見た在宅医療の現場に衝撃を受け、32歳で自身のクリニックを立ち上げたという経歴の持ち主です。「患者さんも医療従事者も幸せになる」という在宅医療を目指し、大規模なチーム体制を組み医師の負担を減らしながら24時間いつでもどんな病気でも対応できる体制を実現されています。2016年4月の時点で受け持ち患者がグループ全体で3000人、首都圏を中心に9施設のクリニックがチームを組んでいます。

佐々木先生のインタビュー記事から、印象に残った言葉をご紹介します。

- ・病院にいると主役は「病気」だが、在宅医療で患者さんのお宅に伺うと主役は「生活」だということ。在宅で診療を受けている患者さんは、病気やケガ、障害があっても人生を楽しんでいる印象があった。
- ・病気になってもやれることはある。自分の「生き方」にあった治療は何かを判断し、残りの人生の時間を有意義に過ごすこともできる。
- ・患者さんの人生観を大切に。治療を決めるのはあくまでも患者さんであり、ご家族の意志であり、人生観。患者さんやご家族の本音にいかにかアクセスできるかで、治療方針やその満足度も変わってくるので、コミュニケーションを大切にしている。
- ・在宅はその患者さんの気持ちをどれだけ理解できるか、その思いをどれだけ自分たちの行動に移せるかということが重要。患者さんの行動や言葉の裏には何があるのかを探るなど人間学的な要素が大きい。
- ・在宅医療の使命は、その人の強みを医療者が見つけ出し、それを軸に弱いところを補強して生活や社会参加が主体的にできるように環境を整え、サポートすることではないかと感じた。

先生のお話から、病院という場で勤務するソーシャルワーカーである私たちは、「地域包括ケア」の第一歩として、患者さんの“治療や療養の場の意思決定支援”をしっかりと行う必要があると感じました。入退院支援連携事業を通して、患者さんの価値観や人となりを理解し、関係職種で共有していけるような仕組みづくりができればいいなと思います。2月26日の講演会で佐々木先生の生の声を聴き、地域包括ケアで私たちが出来ることを考える機会としていただけたら幸いです。多くの方のご参加をお待ちしています。

※本稿における、在宅医療講演会の案内を別紙に添付しておりますので参照下さい。

部会からのお知らせ

■研修部（研修部だより 平成29年1月の予定）

- ① 初任者研修（終了）
- ② めだかの学校（休み）
- ③ めだかのホームルーム（休み）
- ④ めだかの放課後（予定）

日時：2017（平成29）年2月16日（木）19:00～21:00

場所：中頭病院

内容：入退院支援連携デザイン事業について（仮）

⑤ OGSV

日時：2017（平成29）年2月8日（水）19:00～21:00

場所：那覇市立病院

⑥ 入退院支援連携デザイン事業（県委託）

宮古圏域（12月実施済み）、八重山圏域（1/29）、中部圏域（2/4）、北部圏域（3/5）、南部圏域（3/18）

南部圏域担当者打ち合わせ 1/17

中部圏域担当者の進捗状況報告

■樋口会長より

① 入退院支援連携デザイン事業関連

12/22 入退院支援連携デザイン事業ガイドライン編集ワーキング（看護職）

1/10 入退院支援連携デザイン事業ガイドライン編集ワーキング（リハ、薬剤師、看護師）

東京都版などをたたき台にワーキングとして標準的なものを作成。標準版で提示して4月以降各保健医療圏域で検討を加えていく方向で。

② 地域医療構想関連

県医療政策課が市町村担当者に対し、入退院支援連携における情報共有に係る説明会を予定。会長で先進事例等講義予定。八重山圏域（1/19）、北部圏域（1/26）、南部圏域（1/30）、中部圏域（1/31）

コラム “Dr”

担当 S・M

当院に素敵な「Dr」がいる。少し前に還暦を迎えた。医師としても信頼できるが、更に人間性なんだろうと思う。だから、病院職員も患者さんもたぶん全員が「Dr」のことが好きである。「Dr」への文句をどこからも聞いたことがない。

最近、そんな「Dr」と私は本友達になった。といっても、「Dr」から私に本を貸してくれる一方通行。きっかけは、最近「Dr」が良く出会う高齢の患者さんの終末期。循環器内科が専門だが、当院は急性期のため近隣の高齢者施設から多くの患者さんが入院し、「Dr」は認知症による拒食や誤嚥による嚥下困難を抱える寝たきり高齢者を多く治療する。少し前までは、第一選択肢が胃瘻や経鼻胃管だったが、最近の風潮で「Dr」も栄養補給方法の選択を、家族に理解できるようにICすることが必要になった。「Dr」から『〇〇くん、いつものね。また話ししないといけないよ。96歳だね。調整お願いね。はぁ難しいね〜。』と依頼が来る。そんな「Dr」に影響を与えた本が、“欧米に寝たきり老人はいない。—自分で決める人生最後の医療—”である。『考え方は色々あると思うけど、みんなこの本は読むべきだと思うよ。でもね、とっても難しいことがあるよ。ある年代の人の多くは、元気なうちにこんな話聞きたくないみたい。〇〇君どの年代かわかる…?』とふたりで雑談する。人生最後の医療を自分で決めておくという最近の風潮は、MSWとして大切だと納得がいく、必要性を訴えつつも、全ての人が考えるべきなのかと疑問も湧く。死生観って奥が深くて難しい…。

本の話しに戻ると、この本を貸してくれたのはいいけれど、2日後には『母親に読ませるから返してね。』と返却。まだ購入していないので、私は読めていない。代わりに渡されたのが年季のはいったトルストイの“われら何をなすべきか”。とても素敵な本だからと「Dr」は言う。課題は400字詰原稿用紙4枚の読書感想文。もともと読書は好きだが、内容が難しくてなかなか先に進まない。いつ書けるかな、感想文…。

ちなみに、コラムに書くことを「Dr」に了解をもらっていない。でも素敵な「Dr」だから、きっと許してくれる。

沖縄県医療ソーシャルワーカー協会のホームページ

<http://www.msw-oaswhs.jp/>

編集後記

とても寒いですね。今年もインフルエンザが猛威をふるっております。わたくしはというと、新年の出だしからインフルエンザ罹患。。。体調管理の甘さを猛省する新年のスタートとなりました。年度末・新年度に向けて、みなさまも手洗い励行等体調管理に十分お気をつけください。

お忙しい中原稿を担当していただいた皆様、快く引き受けて頂き本当にありがとうございました。